|  |  |
| --- | --- |
| 現代文2018年度第7回「「待つ」ことの対象・理由を考える」　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 | 作成者：直井実施日：2018.10.27　　　　　　　　(土曜日) |

**基本情報**

|  |  |
| --- | --- |
| 【単元の目的】生徒が、①小説に対して様々な解釈を認め、②自分なりの読む楽しさに納得感を持つ　　ようになる。【今回の授業のねらい】＊単元の目的達成のために、今回はどんな学びを生み出したいのか？　　　　　　　　　　　＊各回のステップ( ⅰ)~ⅵ)で表していたもの)をもとに入れてください！・物語の外側から、様々なフレームから２つの作品を比較することで、角度を変えて物語を読むと色々な読みが見つかることを理解する。対象者（生徒・クラスの現状予想。テーマへの関心など。）＊以下は、単元の目的や今回の授業で取り組むことの視点を踏まえて書きましょう！生徒の現状　・本文を読んで、内容を読み取る力はもともとついている。(先生より)クラスの雰囲気・普段、先生からの問いかけ、呼びかけへの反応は良い。テーマへの関心第6回で、・『待つ』の通読をして、内容を把握している。　　　　 ・『待つ』について、本文に書いてある情報から、自分なりの読みを持っている。　　　　 ・本文を読んで、疑問に感じる点を書き出していることから、作品への探究心をもっている。 | 【今回の目標】　＊今回の授業のねらいを達成するには、生徒が何を完了すれば良いのか？・疑問について、自分なりの読みを持つ　→それを他の人と共有し、多様な読みに触れる。・共有を踏まえて自分の読みを再考する。→自分の読みが固まる。評価の観点と方法（目標と対応するように）　＊完了度合いを何で測るのか？何をもって完了と見なすか？・自分の読みを、根拠を持って共有できる準備物など・ワークシートその他* 決まった正解を探すようなワークにならないよう、問いの立て方に注意する。

・日頃の読解で練習している、問題作成者の意図を汲む読み取りが全てではないと、体験を　通して実感できている。そうした読みの楽しさを感じる。 |

**タイムライン（計　43　/ 　45　分）**。＊曜日によって持てる時間が変わるので注意！　(月金土:45分　木:40分)

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 構成 | 時間（分） | 活動内容 | 各活動のねらい | 予想される生徒の様子 | 大学生の対応 | 備考 |
| 導入 | 7分 | ・自己紹介・黙読・前回出た疑問点を、今回扱う疑問　の提示・前回のワークシートから上がった　読み・疑問をいくつか取り上げて　紹介する | ・流れを明確にする。・やることを理解して、すぐに　ワークに入れるように・今回の授業の目的を伝える |  | ・新しく授業に参加する大学生は自己紹介をする |  |
| 個人ワーク | 10分 | ・「何故、何を待っているのか？」という疑問に対して、考えるポイントを整理する。・その上で、この疑問に一つの答えを出す | ・疑問について、自分なりの読みを持つ | ・本文中から読み取れることから、待っている対象・根拠を考える・何をポイントに考えればいいのか分からない | ・プリント配布補助・大学生の人数が多いので、各班1人サポートに入る。・板書補助 |  |
| グループワーク | 10分 | ・お互いの読みに自由にコメント・質問をする【ルール】時間内に**全員が**発表と質問をすること。 | ・様々な読みに触れる | ・班員ごとに、発言量の多少ムラが出来る・大学生の意見に流される | ・班のファシリテーションを行う・興味深い意見は拾い、話し合いを盛り上げる・生徒第一だが、なるべく自分の読みを提示する |  |
| 班別発表 | 6分 | 班ごとに、どのような意見がでたのかを共有する | ・班ごとにどのような意見が出たのかを知り、自分の結論につなげる | ・何を言えばいいのかわからない・自信のある読みを話す |  |  |
| 振り返り・まとめ | 10分 | 本時の活動内容の確認・自身の「待つ」理由・対象への結論をまとめる・本時の振り返り・本時のまとめ・次回予告 | ・活動内容の整理・確認・復習・自身の読みの言語化 |  |  |  |